

続いて、第2の柱 『ふるさとを愛する豊かな心づくり』について申し上げます。

まず、教育の魅力化につきましては、ふるさと教育など、「子どもたちが、ふるさとを愛し、全ての人を大切に育てる教育」を基本に進めてまいります。

新年度は、島根県が「教育の日」として定めております11月に、本市としても「おおだ教育の日」を設け、各種講演会やパネルディスカッション、児童生徒による特色ある取り組み事例の発表など、教育に関する多彩な催しを通じて、市民が「子どもたちの教育」について考え、語り合う日としたいと考えています。

また、教育委員会に「小中高魅力化コーディネーター」を新たに配置し、学校・家庭・地域が、それぞれの役割の中で、子どもたちの教育に関わり、自主的な活動に繋げる取り組みを進めてまいります。

児童生徒の基礎学力の定着や、学力向上に向けては、支援員を重点配置し、小学校低学年の学習支援を充実させるとともに、家庭学習の習慣づけのため、放課後学びの場などを、継続して実施してまいります。

また、全ての学校に図書館司書を継続配置し、読書活動を通じた、児童生徒の豊かな心の醸成や、思考力・判断力・表現力を高める教育を進めてまいります。

教職員の働き方改革につきましては、「大田市学校業務改善プラン」並びに「大田市部活動ガイドライン」に基づき、業務の改善・削減に取り組み、教職員が、児童生徒にゆとりを持って向き合い、細かな支援ができる環境を整えてまいります。

教育機会の確保につきましては、支援員・介助員を配置し、課題を抱える児童生徒、その保護者への相談支援体制の充実を図りながら、一人ひとりに応じたきめ細かな支援に努めてまいります。

また、新たに幼児期通級教室を久手幼稚園に開設し、発育に課題を抱える幼児とその保護者の相談・支援体制を充実してまいります。

教育環境につきましては、今後の児童生徒数の減少や、教育を取り巻く諸情勢の変化に対応していくため、学校規模・配置などを含む学校運営の道筋を定めた「学校のあり方に関する基本方針」を策定してまいります。

また、子どもたちが、季節に関係なく快適に学習できるよう、この夏までには、全ての幼稚園・小中学校にエアコンの設置を行ってまいります。

このほか、第二中学校体育館の大規模改修や、小中学校の情報教育用パソコンの計画的な更新を進めてまいります。

社会教育につきましては、ふるさと教育や、公民館合同による歴史講座の開催を通じて、学びの場の充実を図ってまいります。

公民館につきましては、ブロック体制としてから 10 年が経過したことを機に、改めて、体制のあり方について検討を進めてまいります。

図書館につきましては、ボランティア団体の協力による読み聞かせ活動や、学校図書館司書と連携した調べ学習をいっそう推進してまいります。

また、図書の貸出をインターネット予約できるシステムを構築し、市民の方々の利便性の向上を図ってまいります。

自然、歴史、伝統文化の活用につきましては、世界遺産「石見銀山遺跡」をはじめとする、貴重な自然、歴史、伝統文化の適切な保存に努めながら、このたび日本遺産に申請した「火山からの贈り物」「石見銀山街道」「石見神楽」の 3 つの地域資源を中心に、魅力と活力ある地域づくりにつながるよう活用を進めてまいります。

石見銀山遺跡につきましては、市内全ての小中学校で取り組んでおります石見銀山学習や、石見銀山学概説書の第2巻、第3巻の刊行などを通じて、多くの方々に、その価値の理解がより深まるよう取り組みを進めてまいります。

また、国史跡の佐比売山神社や、大森及び温泉津の町並み保存地区の建造物修理を計画的に進めるとともに、昨年4月の地震により被災した大安寺跡石垣だいあんじの復旧整備を進め、世界遺産の保全を進めてまいります。

芸術文化の振興につきましては、市民会館を中心に、音楽や演劇など、市民が、多様な芸術文化に触れる機会を確保するとともに、各地域での芸術鑑賞の機会の充実を図ってまいります。

引き続き、大田市文化協会等との連携による大田市文化祭の開催や、ふるさと文芸賞の実施、本因坊道策名人を顕彰した囲碁の振興と普及などにより、芸術文化に関わる機会を提供してまいります。

スポーツの振興につきましては、誰もが年齢や体力に応じたスポーツを楽しめるよう、「健康体力づくり市民大会」、「三瓶高原クロスカンントリー大会」を引き続き開催してまいります。

2020年は、岡山県笠岡市との友好都市縁組が30周年を迎えます。その記念行事や交流のあり方について、笠岡市との協議を本格的に進めてまいります。

あわせて、今年度から実施します中学生の相互交流を引き続き行い、交流を通じながら、井戸平左衛門公の功績への理解を深めてまいります。

姉妹都市の韓国大田廣域市との交流につきましては、新年度は本市に、中学生をお迎えして、ホームステイや日本文化を体験していただきながら、両市の中学生の国際交流を通じて、幅広い視野を持つ人材の育成を進めてまいります。

山村留学につきましては、山村留学センターを、市内外の子どもたちの教育と学習の場として提供するとともに、体験プログラムの拡充や、活動の場を市内各所へ広げるなど、魅力の創出を図ります。